

第33回 芦原科学賞贈呈式

かがわ産業支援財団



▲香川の産業技術の高度化・産業振興に寄与する研究開発に贈られる「芦原科学賞」。同社のタオル自動展開機が「過去10年以内に優れた成果を上げた研究」と認められ、2025年度・第33回芦原科学賞の功労賞に輝きました

品質検査装置

「検査」工程を担当。アイロンをかけたリネン類を高精度カメラで撮影し、自社開発の画像処理ソフトで検査。汚れ・破れなどがあれば自動で選り分ける

畳み機・集合コンベア

「畳む・まとめて運ぶ」工程を担当。検査にクリアしたリネン類は、畳み機で決まった形に畳んだ後、一定数ごとにコンベアで集められ、再び貸し出される



▼タオル自動展開機 (ATA)

「さばく・広げる」工程を担当。絡み合ったタオルの塊をほぐして1枚ずつ抜き取り、サイズを分類し、角を判別してきれいに四角く広げるまでを自動で行える機械。広げたタオルはベルトコンベアで整形工程に送られる

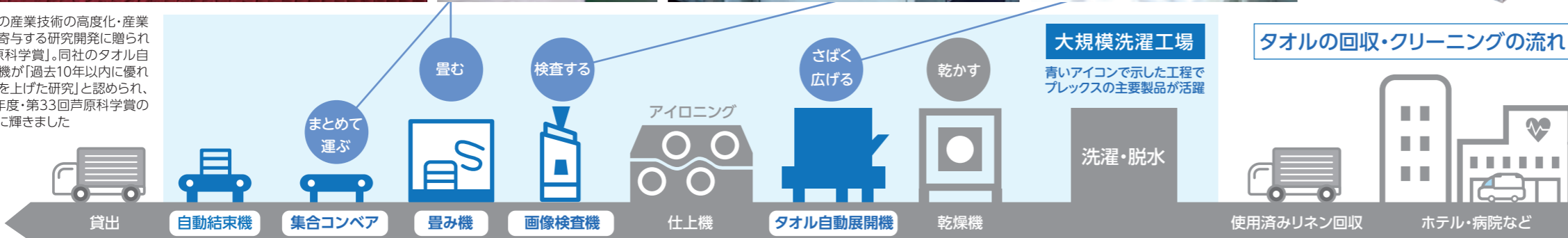


▲衣類自動投入機

同社がブレイクするきっかけとなった、浴衣や病院衣など日本独自の形状に対応する投入機。衣類をかぶせるだけで、自動できれいに平たく広げてからアイロン工程に送ってくる



(左から) 取締役の矢野誠さん、代表取締役社長の元木孝治さん



大量のリネン類も機械にお任せ！ クリーニング工程を独創的に自動化

価格転嫁支援 アドバイザーの 訪問支援【無料】

県が委嘱する価格転嫁支援アドバイザー(中小企業診断士)が、物価・労務費などの高騰に関する経営課題を抱える事業所を訪問して悩みをお聞きし、価格転嫁へのアドバイスなど、課題解決に向けた第一歩のサポートをします。

対象 県内に事業所を有する中小企業・小規模事業者(個人事業主を含む)

費用 無料

訪問回数 原則1回(最大3回)

訪問時期 アドバイザーが相談者の方と調整の上で決定(夜間、土日を含む)

内容 アドバイザーがお悩みなどを聞き取って課題を抽出し、事業者さまが着手すべき事項の助言や情報提供、専門支援機関への橋渡しなどをします。

申込方法 ①オンライン: 下記の二次元コードから ②電話、メール、FAX: 下記連絡先へ

問い合わせ先
商工労働部経営支援課
(総務・地場産業グループ)
☎087-832-3339
メール keiei@pref.kagawa.lg.jp
FAX 087-806-0211



中でも同社の独創性を象徴するものが、業界初の「タオル自動展開機ATA」です。洗濯・乾燥を終えたタオルは、従来は人の手で1枚ずつ広げて自動畳み機にセットする必要がありました。ATAは洗濯後のバスタオル・フェイスタオルなどサイズの違うものが混ざった塊のまま投入しても、自動でサイズを選別して1枚1枚きれいに広げ、整えてくれる機械。前後工程とベルトコンベアでつなぐことで、投入・選別・整形・検査・畳みの完全自動化を実現しています。

「競合他社とは、発想力で差別化を図ろうとしています」と、代表取締役社長の元木孝治さん。電機事業部の発足後間もない1985年に入社し、現在の主力商品「投入機」の開発に関わった機械技術者でもありません。「ものづくりの鍵は、設計担当者か現場に足を運んでどんな苦労があるかを実際に見ること、とにかくトライ＆エラーを繰り返すこと。設計者が納品後も主担当として見守り、もし不具合があれば改良も行います」。現場重視の姿勢が、ユーザーの高評価にもつながっています。

約20年を経て花開いた業界初の「タオル自動展開機」

リネンサプライの工程のうち、同社の製品が活躍するのは、主に洗濯・脱水後の「乾かす」から「畳む・まとめて運ぶ」までの工程です。日本では海外よりはるかに高い水準の仕上がりを求めることが多く、カメラで汚れ・破れのあるものを自動選別する日本独自の「品質検査装置」も開発しました。

「ブランケットやタオルケットなど大判タイプへの対応や、処理能力を向上する改良も検討しています」と元木さん。リネンサプライ発祥の地・ヨーロッパへの販路拡大も視野に入れつつ、「リネンサプライは今なお人の手に頼ることが多い分野で、自動化できる余地がいろいろとあります。これからも、現場の負担軽減に貢献する独創的なものを生み出したい」と語っています。

(公財)かがわ産業支援財団 取引支援課
☎087(8)6889904

ホテルや医療機関などで日々交換されるシーツ・枕カバー・タオルなどのリネン類は、施設の所有物ではなくレンタル品であることがほとんど。大量の使用済みリネンを回収・クリーニングし、清潔な状態で再び貸し出すサイクルを担う業界を「リネンサプライ」と呼びます。

そんなリネンサプライ業界で、現場の自動化・省力化に貢献するオリジナル機器を次々と開発しているのがプレックスです。1984年に大手リネンサプライ企業の電機事業部として発足し、2001年に分社化しました。

ホテルや医療機関などで日々交換されるシーツ・枕カバー・タオルなどのリネン類は、施設の所有物ではなくレンタル品であることがほとんど。大量の使用済みリネンを回収・クリーニングし、清潔な状態で再び貸し出すサイクルを担う業界を「リネンサプライ」と呼びます。

そんなリネンサプライ業界で、現場の自動化・省力化に貢献するオリジナル機器を次々と開発しているのがプレックスです。1984年に大手リネンサプライ企業の電機事業部として発足し、2001年に分社化しました。

海外製が主流だった業界でオリジナル리티を追求

ホテルや医療機関などで日々交換されるシーツ・枕カバー・タオルなどのリネン類は、施設の所有物ではなくレンタル品であることがほとんど。大量の使用済みリネンを回収・クリーニングし、清潔な状態で再び貸し出すサイクルを担う業界を「リネンサプライ」と呼びます。

そんなリネンサプライ業界で、現場の自動化・省力化に貢献するオリジナル機器を次々と開発しているのがプレックスです。1984年に大手リネンサプライ企業の電機事業部として発足し、2001年に分社化しました。

「競合他社とは、発想力で差別化を図ろうとしています」と、代表取締役社長の元木孝治さん。電機事業部の発足後間もない1985年に入社し、現在の主力商品「投入機」の開発に関わった機械技術者でもありません。「ものづくりの鍵は、設計担当者か現場に足を運んでどんな苦労があるかを実際に見ること、とにかくトライ＆エラーを繰り返すこと。設計者が納品後も主担当として見守り、もし不具合があれば改良も行います」。現場重視の姿勢が、ユーザーの高評価にもつながっています。

約20年を経て花開いた業界初の「タオル自動展開機」

リネンサプライの工程のうち、同社の製品が活躍するのは、主に洗濯・脱水後の「乾かす」から「畳む・まとめて運ぶ」までの工程です。日本では海外よりはるかに高い水準の仕上がりを求めることが多く、カメラで汚れ・破れのあるものを自動選別する日本独自の「品質検査装置」も開発しました。

ホテルや病院で毎日新しいものに交換され、1日数千枚を超える洗濯物として回収・洗浄される大量のリネン類。その仕上げ工程を自動化し、現場の負担軽減に貢献する香川のものづくり企業をご紹介します。

海外製が主流だった業界でオリジナル리티を追求

ホテルや医療機関などで日々交換されるシーツ・枕カバー・タオルなどのリネン類は、施設の所有物ではなくレンタル品であることがほとんど。大量の使用済みリネンを回収・クリーニングし、清潔な状態で再び貸し出すサイクルを担う業界を「リネンサプライ」と呼びます。

そんなリネンサプライ業界で、現場の自動化・省力化に貢献するオリジナル機器を次々と開発しているのがプレックスです。1984年に大手リネンサプライ企業の電機事業部として発足し、2001年に分社化しました。

「競合他社とは、発想力で差別化を図ろうとしています」と、代表取締役社長の元木孝治さん。電機事業部の発足後間もない1985年に入社し、現在の主力商品「投入機」の開発に関わった機械技術者でもありません。「ものづくりの鍵は、設計担当者か現場に足を運んでどんな苦労があるかを実際に見ること、とにかくトライ＆エラーを繰り返すこと。設計者が納品後も主担当として見守り、もし不具合があれば改良も行います」。現場重視の姿勢が、ユーザーの高評価にもつながっています。

約20年を経て花開いた業界初の「タオル自動展開機」

リネンサプライの工程のうち、同社の製品が活躍するのは、主に洗濯・脱水後の「乾かす」から「畳む・まとめて運ぶ」までの工程です。日本では海外よりはるかに高い水準の仕上がりを求めることが多く、カメラで汚れ・破れのあるものを自動選別する日本独自の「品質検査装置」も開発しました。



株式会社プレックス
住所 高松市鶴市町949-1
設立 2001年 (従業員数) 約90人
☎087-882-6501
https://www.purex.co.jp/